

平成27年3月31日

陸前高田市議会議長 伊藤明彦様

福幸の会

会長 佐竹 強



### 政務活動概要報告書

政務活動費に関する取扱要綱第6条第2項の規定により、平成26年度政務活動の状況について報告いたします。

#### 記

##### 1. 調査事業

(1) 実施日 ①平成26年5月22日(木)～平成26年5月23日(金)

②平成27年2月28日(土)

(2) 場 所 ①明治大学

②紫波町図書館

(3) 参加者 ① 大坂俊(同行者 菅野広紀 千田勝治)

② 大坂俊

(4) 行 程

①5月22日(木) 陸前高田～水沢江刺駅～東京駅～明治大学～ホテル

5月23日(金) ホテル～明治大学～東京駅～水沢江刺駅～陸前高田

②2月28日(土) 陸前高田～盛岡マリオス～紫波町図書館～陸前高田

(5) 調査項目

①日本自治創造学会主催による研究大会「変わる地域社会、変わる自治体、地方議会～自治、自立、文献～」への参加、研究。

②紫波町オガールプラザの視察と、今後の図書館運営のあり方の調査。

(6) 調査概要

①平成26年5月22日(木);午後1時30分より、4氏による各講演があり、最初に、日本自治学会会長であり明治大学名誉教授の中邨章氏が「見える議会、分かる議会、一参加型議会への展望」と題し、転換期を迎える地方



議会の課題として、議会改革の展開、議会基本条例、議会報告会、議員間討議、反問権、議事録の公開、通年議会の開催について、それぞれの実施状況、課題について述べられた。さらに各地議会における規模と定数、報酬について検証し、これからの議員のありかたを語って結びとした。

次に、北海道大学大学院教授の宮脇淳氏による、「消費税アップと地方財政の行方」と題しての講演があり、消費税アップによる地方財政への影響を見据えた上での行政コストや地方財政計画の見直しの具体の項目をあげ、さらに地域元気創造事業などの創設や地域間配分問題への対応の必要を唱えていた。

休憩のあと、内閣官房地域活性化統合事務局次長の藤原豊氏により、「国家戦略特区」についての講演において、「国家戦略特区」検討経緯、制度の概要、現状及び今後の課題について述べられ、国における制度の創設途上の経緯が詳しく紹介された。さらに、制度の概要、課題が、阿部内閣総理大臣のスピーチや国会答弁を引用しながら述べられた。

初日の4人目は、東洋大学経済学部教授の根本祐二氏により「公有財産老朽化への対応」と題し自治体・首長に求められる課題が述べられ、各自治体の例を引用しつつ、その対応の可能性を探る仕組み等が紹介された。初日の最後は、中央大学佐々木信夫教授をコーディネーターとして、パネリスト4氏によるパネルディスカッションが行われ、「変わる地方・変わる地方議会」と題し、討議が行われた。

初日は午後からの講演であったが、すべての題について、地方議員としての今後の姿勢、あり方を問われる事が内在しており、大変参考になり、さらなる学習、研修の必要性を感じさせられる半日であった。

5月23日；2日目も初日に引き続き講演がおこなわれ、最初に総務省地域政策課長の猿渡知之氏が「ICTの活用による地域経済の活性化」と題し、ICTの活用、特に自治体クラウド、社会クラウドの活用の必要性が述べられた。そして、活用の可能性として、予防医療・介護基盤、金融決済基盤、企業支援システムなどについて、自治体システムの最適化の例が紹介された。

次に、慶應義塾大学教授の小林慶一郎氏により、アベノミクスと日本経済のこれからが述べられた。アベノミクスの効果と課題、財政再建に必要なコスト、財政の危機シナリオの3点について述べられたが、結論としては、総

じてリスク、危機が叫ばれており、反面教師的理解が必要なのか？と悩むところであった。

三人目は、日本自治創造学会理事長の穂坂邦夫氏が「地方議員の必須条件・変わる地方議会」と題し講演、変わる地方議会では、社会環境の激変、オンブズマン、住民が求める議会・議員の役割について、持論を展開、地方議員の条件については、七つの必須条件を揚げ、それぞれについて、説明した。さらに、仕事を成功させる具体的な方策、議員編として、なぜ、住民は議会の権限を理解できないのか？の疑問について、細かな説明を展開していた。

最後の講演は、東京大学大学院准教授の村上祐介氏により、教育委員会改革と首長・議会の役割が論じられた。

ここでは、教育委員会制度改革の経緯、地教行政改正案の論点と課題、首長・議員の役割と期待したいことについて述べられた。いずれにせよ、改革後の現場では、個々のポジションでの正確な状況判断が求められることとなり、首長・議員の責任が大きくなることであると思われた。

日本自治創造学会研究大会については、時事のテーマについて、各専門の先生による研究分析が紹介され、大変参考になると共に、今後の自らの議員活動にとっても、指針を示すものとなり、思考展開上大変勉強になる2日間となりました。

② 平成27年2月28日(土)；盛岡市マリオスにおいて、横田町の「アトリエ飛鳥」の田崎飛鳥君出展の美術展を見学した後、紫波町オガールプラザを訪れ、図書館を中心に視察。オガールプラザは、オガールプラザ株式会社と紫波町が共同主宰するオガールプロジェクトによる施設で、関連サイトとして、紫波町情報交流館、紫波町図書館、子育て応援センターしあわせ、紫波マルシェなどから成る公民共同の複合施設で、遊休公有地を活用した官民複合施設として大きな成果を出しているところある。そんな中、図書館は、従来型とは異なり、産直、カフェ、眼科歯科などの医療施設、地域交流館などとの複合施設として立地しており、今後の図書館のあり方として、新しい道筋を示しており、大変興味深いものであった。

その見学中に、紫波町職員であり、情報交流館事務局長であるところの、堀内氏との意見交換の時間を得、図書館についてもうかがうことができた。

その中で、特筆すべきは、図書館は開館当初、指定管理制度であったものが、

今年度より、紫波町直営に変えたとの事であった。図書のリファレンス管理、町民サービスを考えるの事であるとのこと。指定管理制度が一般的となっている昨今、一つのあり方として考えさせられるものがあった。